

会 議 録

1 会議名

令和5年度第4回牧区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

○報告事項（公開）

(1)第2次上越市総合公共交通計画・後期再編計画の策定について

○諮問事項（公開）

(1)上越市過疎地域持続的発展計画変更（案）について

○協議事項（公開）

(1)令和5年度牧区地域協議会委員研修について

○自主的審議事項（公開）

(1)あらゆる人が安全・安心に住み続けたい「牧づくり」について

3 開催日時

令和5年7月18日（火）午後6時30分から午後8時05分まで

4 開催場所

牧区総合事務所3階 301会議室

5 傍聴人の数

2人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）の氏名（敬称略）

- ・委員：西山新平（会長）、飯田秀治（副会長）、池田幸弘、井上光廣、小黒誠、折笠忠一、坂井雅子、佐藤祐子、高澤富士雄、清水薫、難波一仁、横尾哲郎
- ・交通政策課：木南副課長、野沢主任
- ・事務局：牧区総合事務所 米川所長、小林次長（総務・地域振興グループ長兼務）、佐々木市民生活・福祉グループ長兼教育・文化グループ長、丸山総務班長、藤井地域振興班長、田中地域振興班主事

8 発言の内容（要旨）

【小林次長】

- ・会議の開会を宣言。
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。

【西山会長】

- ・挨拶。

【米川所長】

- ・挨拶。

【西山会長】

- ・会議録の確認：清水委員に依頼。
- ・報告事項である、(1)第2次上越市総合公共交通計画・後期再編計画の策定について、交通政策課及び丸山総務班長より説明を求める。

【木南副課長】

—資料No. 1-1に基づき説明—

【丸山班長】

—資料No. 1-2、3に基づき説明—

【西山会長】

- ・今程説明のあった件について、質問や意見等はないか。

【清水委員】

- ・資料No. 1-1「路線バスの利用状況と市の財政負担」のグラフを見ると、国庫補助金が極端に減少している。何か理由があるのか。

【木南副課長】

- ・平成28年度に「地域公共交通再編実施計画」を策定したことにより、国庫補助金の要件緩和などの特例措置が適用されていたが、計画期間終了に伴い、国庫補助金の特例交付は、令和2年度は半減、令和3年度からは全くなかった。また、今回の第2次総合公共交通計画は、特例措置の適用対象から外れており、国庫補助金は少なくなっている。

【西山会長】

- ・清水委員、よろしいか。

【清水委員】

- ・国の制度に対しては、納得できない。

【木南副課長】

- ・第2次総合公共交通計画を策定する時点で、国庫補助金が減ることは承知していたため、再編などで市負担の抑制に努めている。

【清水委員】

- ・東京都では高齢者が無料で乗車できる制度もある。それらを考えると非常に厳しい。

【木南副課長】

- ・人口が多い都市部、反対に人口が少ない過疎地では、高齢者の運賃無料に取り組んでいる自治体もある。以前、上越市として取り組む場合の試算をしたが、市の負担が大きくなることから、現段階ではそのような取組は考えていない。イベントやキャンペーンで運賃を100円としたり、タクシー券を用いた高齢者の外出支援を行っている。

【井上委員】

- ・資料No. 1-3の8ページ下部に「土・日曜日や夜間の運行については、運転手の拘束時間が増えることによる人件費が増加する一方で、アンケート・聞き取り調査の結果を見ると、ニーズが少ないことから、令和5年4月からの本運行は対応しない」とあるが、アンケート結果は資料に記載されているか。

【木南副課長】

- ・8ページ上部に記載している。

【井上委員】

- ・例えば、土日に市街地へ出向く場合は宮口線まで行かなければならないが、そこに行くまでの交通手段がない方もいると思われる。アンケートや聞き取り調査による数の問題だけではない。

【木南副課長】

- ・過去の利用状況も踏まえるとニーズが少ないため、土日は運行しないこととした。井上委員がおっしゃったとおり、ここで示しているニーズはアンケートに回答いただいた数でしかない。一方、金銭的な問題もあり、現在のニーズで土日に運行することは難しい。

【井上委員】

- ・過去の利用状況も考慮しているということか。

【木南副課長】

- ・そのとおりである。実際の利用状況としては通学や通院が多く、土日の利用は少ない。

【難波委員】

- ・全国的に運転免許証の自主返納が進められている。区内のバス利用が少ないのは、自分で運転できる方が多いことだと考えられるが、いずれは免許を返納する立場になる。免許を返納しても安心して生活できるように今後も運行を存続し、国へ補助金の増額を求めるなど、将来を見据えて取り組んでいただきたい。

【木南副課長】

- ・国に対し、地方の現状を伝えながら、補助金の要件緩和を求める要望を出している。市民から「現在は心配ないが、今後のことを考えると不安」といった意見も多く聞かれる。一方で、「一人も乗車していないバスが走っている」という指摘もある中で、利用がないものに多額の費用をかけることは難しい。今まで自分で運転していた方がバスを利用すると、運行時間に合わせることやバス停まで行くことを不便に感じると思うが、牧区の場合は、予約型コミュニティバスを利用できるため、自分の行動時間に合わせることができ、一般的なバスより便利である。利用者の増加にもつながるよう皆様からご利用いただきたい。

【西山会長】

- ・部活後の中学生のバスは別便で運行されていたが、現在はどのような扱いなのか。

【丸山班長】

- ・現在は定時便で対応している。

【西山会長】

- ・他に質問や意見等がないため報告事項を終了し、交通政策課からは退席していただく。
続いて、諮問事項(1)上越市過疎地域持続的発展計画変更（案）について、事務局より説明を求める。

【小林次長】

—資料No. 2に基づき説明—

【西山会長】

- ・今程説明のあった件について、質問や意見等はないか。

【井上委員】

- ・今回の諮問は主に文言の整理で、基本的な内容は変わらず、新しい考えに合わせた変更だと説明いただいた。しかし、新旧対照表23ページの「持続的発展の基本方針」について、変更後は枠内の文言が一括削除されるなど、変更前後で大きく表記が異なっている。また、変更前は「選ばれるまち」と記載されているが、変更後はそのような記載がない。文言の整理というより内容の変更だと感じた。

【小林次長】

- ・全体的には文言の整理で、数値は最新の情報に変更している。第7次総合計画で設定された五つの基本目標に合わせて変更したものである。

【難波委員】

- ・第7次総合計画や財政計画、過疎地域持続的発展計画といった様々な計画があるが、各計画の期間がそろっていれば、一括で見直すことができるのではないかと。策定している担当部署が異なり、難しい部分もあると思われるが、地域住民の視点からすれば計画期間がそろっていた方が分かりやすい。

【小林次長】

- ・第7次総合計画、財政計画、定員管理計画、行政改革推進計画は同じ計画期間で取り組んでいるため一括に見直されるが、それ以外の計画は担当部署によって計画の定めが異なる。一方、計画期間の途中で見直しを行い、その都度修正を行っていることから、ご理解いただきたい。

【井上委員】

- ・新旧対照表27ページ、「次世代を担う農業者となることを志向する50歳未満の人に対し、就農後の経営発展のための機械・施設等の導入及び就農直後の経営確立を支援する資金を交付する」とあるが、今後過疎地域でこのような人材を求めていくことは難しいと思われる。現実的な人口構成や人の動きを踏まえ、計画を検討した方が良い。

【米川所長】

- ・現状、牧区の農業は70代の方が中心になって取り組んでおり、50歳未満の方はとても貴重な存在である。個人的には、このような事業があれば担い手の増加も期待されることから、必要な事業と考えている。

【井上委員】

- ・60歳で定年を迎えて農業を始めるなどの幅広い考えがある。

【西山会長】

- ・他に意見等がないため、今回の諮問内容が牧区の住民の生活に支障なしか、あるいは支障ありか、また附帯意見について委員の皆さんの賛否を伺いたい。牧区の住民の生活に支障なし、附帯意見なしで答申を考える方は挙手を求める。

(賛成多数)

【西山会長】

- ・それでは、諮問内容について支障なし、附帯意見なしと答申することとして諮問事項を終了する。
- ・続いて、協議事項(1)令和5年度牧区地域協議会委員研修について、事務局より説明を求める。

【藤井班長】

—資料No. 3に基づき説明—

【西山会長】

- ・本日は視察研修を実施するか否かを決定したい。地域協議会委員の任期も今期が最後となり、これまでの研修も有意義に実施してきた。委員の中には平日の参加が難しい方もいると思われるが、可能であれば今年度も視察研修の形で実施できれば良い。

【横尾委員】

- ・今期が任期最後のため、視察へ伺いたいと考える。個人的には、例に挙げられている糸魚川市の復興まちづくり情報センターが興味深い。

【西山会長】

- ・希望する視察先については、要望調査にご記入いただければと思う。まずは視察研修を実施するか否か、賛否を伺いたい。視察研修を実施することに賛成の方は挙手を求める。

(賛成多数)

【西山会長】

- ・協議の結果、今年度も牧区地域協議会委員研修として、視察を実施することに決定した。

【坂井委員】

- ・今後、地域独自の予算を用いて予算要求していく。視察研修も実になるが、講師を招いて予算要求の仕方などを学ぶ勉強会を開催し、牧区の発展につなげていくことも一つの案である。

【西山会長】

- ・本日配布した委員研修に係る要望調査を8月10日までに事務局へ提出いただきたい。以上で、協議事項を終了する。
- ・続いて、自主的審議事項(1)あらゆる人が安全・安心に住み続けたい「牧づくり」について、事務局より説明を求める。

【藤井班長】

—資料No. 4に基づき説明—

【西山会長】

- ・今程説明のあった件について、質問や意見等はないか。

【難波委員】

- ・牧区地域協議会として事業を提案するということか。

【藤井班長】

- ・そのとおりである。

【難波委員】

- ・地域協議会は、地域活動支援事業では審査する立場であり、提案することができなかった。その点については問題ないという解釈でよろしいか。

【米川所長】

- ・地域協議会として事業を提案することはできるが、実施主体にはなれない。一方、他の団体から協力いただくことは可能である。

【小黒委員】

- ・地域協議会が提案して他の団体が実施主体となり、事業を行う予算があれば良い方向性に進むと思われる。

【難波委員】

- ・先に受け皿となる実施主体を探した方が良いのではないか。

【米川所長】

- ・実施主体の団体と協議を重ねる中で、提案につなげていくことができれば良いと考え

ている。

【清水委員】

- ・令和6年度から事業を行う場合、地域独自の予算における補助率は10分の9となり、1割の自己負担になるということか。

【藤井班長】

- ・今回の提案は新規事業のため、補助率は10分の7となる。令和6年度に補助率が10分の9となるのは、令和元年度から令和4年度まで地域活動支援事業を活用していた継続事業である。

【清水委員】

- ・補助率を念頭に置きながら、事業を提案していく必要がある。

【小黒委員】

- ・補助率10分の7のできる事業を実施すれば良い。

【清水委員】

- ・自己負担となる3割について、どのように工面するかを考えなければならない。

【難波委員】

- ・牧区における令和5年度の地域独自の予算事業では、市が実施主体となる事業が1件あり、全事業費が計上されていた。市が実施主体となる事業を提案するにはどのようにすれば良いか。

【小林次長】

- ・宮口古墳花の会による花壇整備は、以前より市が行うべき事業との意見が挙がっていた。担当課も同様の考えで、地元住民の意向があれば事業の実施をお願いしたいという経緯から、市の委託事業という形になった。

【佐々木グループ長】

- ・市の業務として地元住民が取り組んでいるため、補助率の概念がない。また、市が実施主体になることで全額補助されるということではない。

【小林次長】

- ・委託事業で提案しても、必要がないと判断された場合は経費を削られる場合がある。

【井上委員】

- ・自己負担となる3割は何らかの形で工面しなければならない。例えば、募金やクラウド

ドファンディング、収益で儲けたお金を充てることなどが考えられる。

【米川所長】

- ・イベント事業であれば入場料や協賛金などを充てることができるが、今回の事業では難しいと思われる。自己資金が少ない状況で活動している団体が多いため、協議を重ねる中で最適な手法を見出すことができれば良いのではないかと。

【西山会長】

- ・自己負担を補う手法について、今後協議していきたい。
- ・それでは、事務局から提案があった内容について、令和6年度地域独自の予算として提案することで良いか、賛否を伺いたい。提案することに賛成の方は挙手を求める。
(賛成多数)

【西山会長】

- ・協議の結果、令和6年度地域独自の予算として提案することに決定した。事務局は内容を整理し、地域独自の予算として提案できるように準備を進めていただきたい。
- ・最後に、自主的審議における外出支援の現状について、事務局より報告を求める。

【小林次長】

- ・自主的審議で課題として挙げている外出支援について、取組の現状を報告させていただく。
- ・まず、「コミュニティバス活用の周知」である。4月から予約型コミュニティバスが本運行している。3月までの1日あたりの平均利用人数は7.9人だったが、6月までの延べ1日あたりの平均利用人数は8.3人であった。わずかだが微増傾向にあることから、引き続きバス利用の促進を図るとともに、バス停の増設といった相談に応じていきたいと考える。
- ・次に、「買い物支援事業拡大の検討」である。牧振興会では、冬期間のみ買い物ツアーを実施していたが、地域協議会からの提案や牧区農業振興会からの要望を受け、冬期間だけでなく、今年7月から通年を通して実施する運びとなった。今後も利用者の増加を図っていくために情報発信が必要だと考える。

【藤井班長】

- ・買い物ツアーについて、補足で説明させていただく。今まで冬期間のみ実施していたが、7月から毎週月曜日にJAえちご上越農協牧店舗、木曜日にひらせい上越ウイン

グ店に行く予定である。7月の実施については、7月上旬に開催された敬老会で周知させていただいた。また、8月の実施については、町内会宛て文書で全戸配布するとともに、おおり通信8月号に掲載予定である。

【小林次長】

- ・最後に、「JAえちご上越牧店舗存続に向けての協議について」である。7月13日の木曜日、JAえちご上越牧支店でJAえちご上越経営管理委員会会長を始め、店舗生活課長や牧支店長のほか、区内の担い手農業者6名、県職員2名、市職員でJAえちご上越牧店舗の存続と担い手農業者の不足等について意見交換を行った。まず、JAえちご上越牧店舗の存続について、牧区内に唯一の店舗であることから、引き続き存続をお願いしたところ、今後も存続していくとの回答をいただいた。一方、運営上苦しい面もあることから、積極的にご利用いただきたいとのことであった。
- ・施設内の地場産スペースについて、今後も確保していくとのことだが、10月から開始されるインボイス制度の関係もあり、新規の受入れは状況を確認していきたいとのことであった。
- ・店舗の定休日については、現在水曜日に設けているが、牧診療所の診療日といった利用者の生活実態を踏まえ、定休日の変更も検討しているとのことであった。
- ・担い手農業者の不足については、主に中山間地域等直接支払制度の話で当日は整理ができなかったが、引き続き検討が必要であることから、今回はテーマを決めて協議することを考えている。
- ・以上を踏まえ、外出支援の提案については、事業実施や前向きな検討が進められていることから、地域協議会としての議論を一旦終了する。まだ改善点はあるが、事業の進捗状況を見ながら、見直しが必要であれば協議していきたい。

【難波委員】

- ・牧振興会の買い物ツアーについて、通年の実施になったことは大きな進歩だが、現状としては利用者が少ない。予約型コミュニティバス同様、利用者が少ないのは近隣の店舗まで買い物に行ける方が多いものと思われるが、将来を見据えれば必ず必要な取組である。以前、牧振興会に話を伺ったところ、金銭面で管理が難しいとのことであった。今後も長く続けていただくために、地域独自の予算を活用するなどして取り組むことも一つの案である。

【西山会長】

- ・他に質問や意見等がないため、自主的審議事項を終了する。続いて、その他連絡事項について、事務局より説明を求める。

【藤井班長】

- ・令和5年度地区懇談会の概要について

【田中主事】

- ・各区の「地域活性化の方向性」について（春日区、高士区、新道区、金谷区、安塚区）
- ・次回地域協議会の開催は8月22日の火曜日、午後6時30分からとする。後日、案内文を送付するため、出欠についてご報告いただきたい。

【西山会長】

- ・今程説明のあった件について、質問や意見等はないか。

【西山会長】

- ・他に意見を求めるが発言がないため、飯田副会長に閉会のあいさつをお願いする。

【飯田副会長】

- ・会議の閉会を宣言。

9 問合せ先

牧区総合事務所総務・地域振興グループ TEL：025-533-5141（内線147）

E-mail：maki-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。